

様式第二号の十三(第八条の十七の二関係)

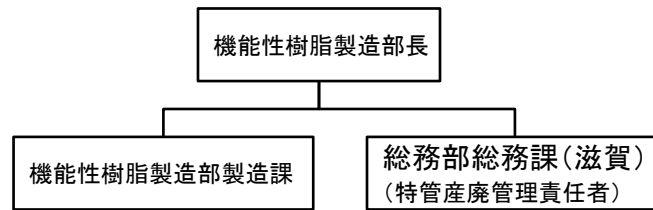
(第1面)

特別管理産業廃棄物処理計画書	
2022年 6月 30日	
都道府県知事 (市長) 滋賀県知事 殿	
提出者 〒354-8577 住 所 埼玉県入間郡三芳町竹間沢283-1 氏 名 株式会社T&K TOKA (法人にあつては、名称及び代表者の氏名) 代表取締役社長 増田至克 電話番号 049-258-1611	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の2第10項の規定に基づき、特別管理産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	株式会社T&K TOKA 滋賀事業所
事業場の所在地	滋賀県草津市西矢倉1-3-11
計画期間	令和4年4月1日～令和5年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	16 化学工業
②事業の規模	前年度出荷額 3,130百万円
③従業員数	72人
④特別管理産業廃棄物の一連の処理の工程	【引火性廃油】 ①タンク→洗浄作業→廃棄溶剤（ドラム）→産廃業者にて焼却処理（サーマルリサイクル）→残渣（セメント原料） ②製品検査時の測定試薬の残渣→廃棄溶剤（ドラム）→産廃業者にて焼却処理（サーマルリサイクル）→残渣（セメント原料） 【特廃酸】 製品検査時の測定試薬の残渣→特管廃酸（ドラム）→産廃業者にて混合エマルジョン化

(第2面)

特別管理産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



特別管理産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油（廃溶剤）	—
	排出量	129.6 t	— t
	(これまでに実施した取組)		
	廃棄溶剤の有価売買契約 ・ 関連部門と連携し、社内リサイクル促進による溶剤購入量の削減および廃棄溶剤量の削減に努める。		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油（廃溶剤）	特管 廃酸
	排出量	139 t	1 t
	(今後実施する予定の取組)		
	・ 廃棄溶剤の有価買取先選定 ・ 関連部門と連携し、社内リサイクル促進による溶剤購入量の削減および廃棄溶剤量の削減に努める。		

特別管理産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃棄溶剤の有価引取分の分別
②計画	(今後分別する予定の特別管理産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 今後も、廃棄溶剤（有価引取分）の分別を行っていく。

(第3面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行った 特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら再生利用を行う 特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行った 特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量した 特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら熱回収を行う 特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	自ら中間処理により減量する 特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		

(第4面)

自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項			
①現状	【前年度（令和 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分を行った 特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(これまでに実施した取組)		
②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	—	—
	自ら埋立処分を行う 特別管理産業廃棄物の量	— t	— t
	(今後実施する予定の取組)		
特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
①現状	【前年度（令和 3 年度）実績】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油（廃溶剤）	—
	全処理委託量	129.6 t	— t
	優良認定処理業者への 処理委託量	129.6 t	— t
	再生利用業者への 処理委託量	t	— t
	認定熱回収業者への 処理委託量	129.6 t	— t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	— t
	(これまでに実施した取組)		
	・ 廃棄溶剤の有価買取先の選定		
	・ 引火性廃油の処理について優良認定業者、熱回収を行っている業者へ委託処理を行い、最終処理工程で再資源化されている。		
・ 特廃酸の処理について、リサイクル処理の業者へ委託している。			
・ 委託業者については、契約前に業者を視察し、またその後は定期的に視察をするなど適正に処理されているか確認を行っている。			

②計画	【目標】		
	特別管理産業廃棄物の種類	引火性廃油（廃溶剤）	特管 廃酸
	全処理委託量	139 t	1 t
	優良認定処理業者への 処理委託量	139 t	1 t
	再生利用業者への 処理委託量	t	1 t
	認定熱回収業者への 処理委託量	139 t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 今後も現在の取り組みを継続し、焼却処理する場合においても、積極的に熱回収・再資源化を行う処理に努め、排出を行っていく予定である。		
電子情報処理組織の使用に関する事項	【前年度】（令和 3 年度）実績		
	特別管理産業廃棄物 排 出 量 (ポリ塩化ビフェニル廃棄物を除く。)		129.6 t
	(今後実施する予定の取組等) 今後も、電子マニフェストでの運用を継続する。		
※事務処理欄			

(第6面)

備考

- 1 前年度の特別管理産業廃棄物の発生量が50トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる特別管理産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う特別管理産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った特別管理産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「自ら行う特別管理産業廃棄物の埋立処分に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、埋立処分した量を記入すること。なお、中間処理を行うことにより特別管理産業廃棄物に該当しなくなった産業廃棄物を海洋投入処分するときは、その量も含めて記入すること。
- 6 「特別管理産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、特別管理産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令（以下「令」という。）第6条の14第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 7 「電子情報処理組織の使用に関する事項」の欄には、前年度の特別管理産業廃棄物の全発生量（ポリ塩化ビフェニル廃棄物（令第2条の4第5号イからハまでに掲げるものをいう。）を除く。）を記入すること。その量が50トンを超える者にあつては、今後の電子情報処理組織の使用に関する取組等（情報処理センターへの登録が困難な場合として廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行規則第8条の31の4に該当するときは、その旨及び理由を含む。）について記入すること。
- 8 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、特別管理産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「―」を記入すること。
- 9 ※欄は記入しないこと。